



withコロナ時代
を生きる
vol.2 考えよう 自分の心、
あの人のきもち

新型コロナウイルス感染症により、変わりつつある私たちの生活。区内でも、新しい日常のかたちづくりに取り組む姿が多く見られるようになりました。

私たちは感染症と向き合い、共存して生きていかなければなりません。一方で、感染者やその家族、治療・対策に携わった方々への過剰な言動が問題になっています。

あなたの家族、友人など、誰もが暮らしやすい生活を送っていくために。周囲の人と助け合い、思いやる気持ちを持ちましょう。



八百良食品(東糀谷三丁目)で撮影。感染症対策に取り組む区民の方に協力いただきました

新しい日常の新しいルール

- NO! 3密 (密閉・密集・密着)
- 手洗いの徹底 マスクの着用
- SOCIAL DISTANCE (距離を保とう)

誰もが暮らしやすい大田区であるために

新型コロナウイルス感染症のリスクの1つに、偏見や差別があることを知っていますか。

国は「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」の中で、感染者・濃厚接触者や、診療に携わった方々に対する誤解や偏見に基づく差別を行わないよう示しています。また、法務大臣、文部科学大臣は、不当な差別・偏見の防止に向けたメッセージを発しています。

都は「STOP! コロナ差別」と題し、差別や偏見による心無い発言は決して許されるものではないことを動画で発信しています。

大田区では何が起きているの?

たとえば、こんなことがあったと報告されています。

“お店の営業を再開したら「なぜ営業しているのか」と電話でののしられた”

“地域の掲示板に、感染の不安をあおるチラシが貼り出された”

“感染者を特定するような情報がSNSを通して広まった”

どうしてこんなこと(差別や偏見)が起こるの?

新型コロナウイルス感染症に対して、不安や恐れを抱くことは、自分の身を守りたいという気持ちから生じる自然な感情です。

しかし、不安を過剰に感じると、今までの生活が崩される気持ちが強まるため、事実を正しく理解することが難しくなり、周囲を疑う気持ちが生まれるといわれています。

一度立ち止まって、考えてみませんか

感染を強く恐れ、人を疑う気持ちが湧き起こったことに気付いたら、一度立ち止まって考えてみませんか。ウェブページやSNSで流れる情報の全てが真実とは限りません。もしかしたら、あなたの一言が身近な誰かを傷つけてしまうかもしれません。

当たり前相手に思いやる気持ちは、「withコロナ」の社会が変わっても忘れてはならない大切なものです。



区HP
「コロナ差別を許さない」

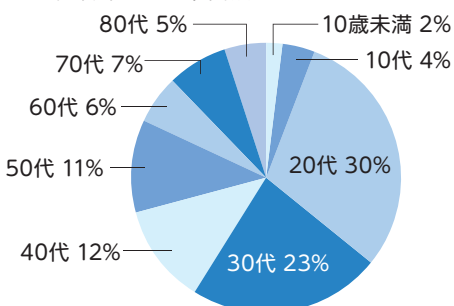
▶ 問合せ先 人権・男女平等推進課人権・同和対策担当 ☎5744-1148 FAX5744-1556

区内新型コロナウイルス感染症情報

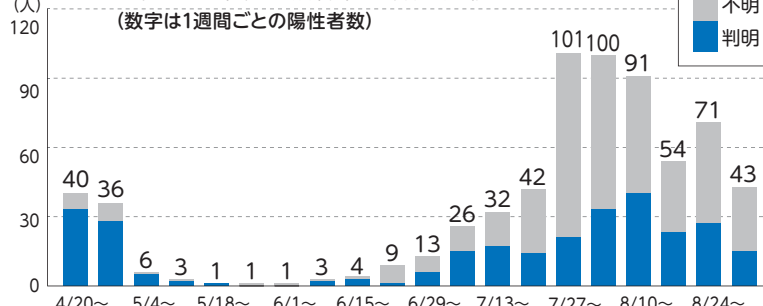
令和2(2020)年9月10日時点

● 累計陽性者数 900名 ● 回復者数 714名

● 区内陽性者の年代別割合(8月1～31日)



● 区内の感染経路別陽性者数の推移 (数字は1週間ごとの陽性者数)



● 8月の区内の傾向

- 20～30代の感染者が約5割でした
- 7月に比べて50代以上が増加しており、特に70代以上の高齢者が12%を占めています
- 感染経路が判明しているのは全体で38%でした

感染者情報の
詳細はコチラ▶



▶ 問合せ先 大田区新型コロナウイルス感染症対策本部(防災危機管理課) ☎5744-1235 FAX5744-1519